



卓 話



「私のイタリア留学とロータリー フェローズ東京 (RFT)」 元財団奨学生 RFT代表幹事 テノール歌手 森田 澄夫氏

私は1976年度財団奨学生の声楽家、森田澄夫と申します。

芸大大学院を終了して、声楽の勉強を本場のヨーロッパに留学したいと強く願っていた当時、ロータリーの奨学生制度があることを知り受験いたしました。幸い試験に通り、念願のイタリア、ミラノのヴェルディ音楽院に留学することができました。その後、プライベートの留学期間も合わせ、凡そ5年間のイタリア滞在の後帰国、声楽家の道を歩みながら現在に至ります。その間、イタリア滞在当時も含め、ロータリーの奨学生として留学できたことがどれだけ役に立ち、また声楽家としてのその後の私を助けてくれたか分かりません。



本日はまず簡単にこのR財団奨学生制度について。次にとても貴重な経験をさせていただいた、イタリアの留学生活。帰国後所属し、現在代表幹事をおおせつかっている財団奨学生OB会で、貴地区の学友会でもあるロータリーフェローズ東京とその活動についてお話させていただきます。

◇ 財団奨学生制度について

多方面にわたる専門分野の人々が希望国の、主に大学への留学を援助する制度。勉学、及び国際親善に貢献することを目的とする。留学期間は1年、または2年のどちらかを選ぶことが出来るが、総援助額は変わらない。5年前から、新たに世界平和に貢献する人々を養成する目的として、国際平和奨学生制度が出来た（アジアの受け入れ拠点校として、国際基督教大学がある）

◇ R財団奨学生制度の他の制度に無い特徴

1) 語学研修

専門に入る前に3ヶ月までの語学研修が受けられ、まず土地に慣れることが出来る。

2) カウンセラー制度

未知の国へ行くのに親代わりがいる安心。

本人のみではなく送り出す家族にとっても安心。

カウンセラー、及び所属クラブを通して、沢山のロー

タリアンと繋がる。病気のときなど安心。

私が留学した当時のイタリアは、勿論、ヨーロッパがEU統合するよりずっと前で、現在とは随分と違うところもあるかとは思いますが、当時を思い出しながら話をさせていただきます。

私は、まず初めに語学研修のため、中部イタリア、トスカーナ地方の古都シエナ大学の、「外国人のための夏季語学講習」に、西洋音楽史が専門の妻と一緒に入学しました。

市の中心部の人口が10万不足で、街ぐるみ世界遺産に指定されているシエナは、日本で言えば、調度奈良のようなとても美しい歴史と観光の町です。ここには、シエナ大学とともに有名なキジ音楽院があって、夏の間、一流の講師陣による講習会が開かれ、その教えを求めて、世界中から、若い音楽家が集まります。この間、シエナは、様々な外国人が出入りする国際都市に変貌します。

私の40数名の語学のクラスも、十数カ国の人たちで構成されていました。お互い、ボディランゲージに頼る拙いイタリア語しか話せない中で、スペイン、ポルトガル等ラテン系の人たちは、最初から、ぺらぺらしゃべっていて、言葉のハンディを大いに感じた次第です。

シエナに着いて3日後に、ロータリークラブ主催の夫人同伴の夏の晩餐会がありました。招待を受けた私たちは、同じテーブルに、20世紀を代表する作曲家の一人、ストラヴィンスキー夫人がいたり、晩餐会の演奏者が、日本でも有名なヴァイオリニストだったり、大感激でした。そこで挨拶とバナーの交換をした際に上がってしまい、大笑いをされたこと等懐かしい思い出です。

私の最初のカウンセラー、ジナンネスキ氏には、本当にお世話になりました。初めての異国で、右も左も分からない時に、色々と相談に乗っていただき忘れられない恩人です。その後奨学生の期間が終わった現在でも、友人としてカードのやり取りをしています。またこの間、シエナの町でも親しい友人が出来、私にとってシエナは第2の故郷になりました。

2ヶ月の語学研修期間も過ぎ、音楽院の入学試験も無事終了、いよいよ音楽の勉強の始まりです。

ミラノに着いて、最初にミラノのカウンセラーで音楽学者のバルブラン教授に会いに行きました。残念なことにバルブランさんは病気で、自宅療養中でした。その後

も彼の病気は回復せず、結局カウンセラーとしては何もしていただくことはありませんでした。代わりに前年のパストガヴァナーで同じミラノ大学のバルニ教授が、カウンセラー代わりになって下さいました。私はこのお二人を通して、ロータリーの機動性とロータリー精神を教えられた思いがします。

ミラノでもロータリークラブで挨拶やバナーの交換、またクリスマス例会では、着物で故郷博多の黒田節を唄い踊ったりしました。また例会で知り合ったロータリアンに無くなった父親が作曲したオペラの譜面を見せられ、アリアを妻のピアノ伴奏で歌い喜ばれました。ある時にスカラ座で気分が悪くなり気を失い倒れ、翌日にロータリアンの医者に診て頂いた時は、ロータリークラブの横の繋がりの素晴らしさを思わずには居られませんでした。

またアパートの隣人を初め、多くの親しい友人が出来、イタリア人の中で生活をする事が出来た5年間のミラノの生活は、凡そ百数十回のスカラ座通いを含め、声楽を学ぶ私にとって最高の環境だったといえます。

大変貴重な経験を積むことが出来た5年間の留学を終え帰国し、私の音楽活動が始まり、オペラや、コンサートに多数出演させていただきました。また年次大会を含め、ロータリー関係の演奏の機会も度々頂き感謝しています。

ここで、私たちパストフェローの同窓会、ロータリー

フェローズ東京（RFT）について述べさせていただきます。概要は以下の通りです。

◇ 創立 1967年（昭和42年）

初代会長は日本からの第1回奨学生の清水長一氏、幹事には、第2回奨学生の緒方貞子氏や、現在の第2代会長の田中栄次郎氏も。

◇ 会員 350名

東京及びその周辺地域に勤務又は在住するパストフェロー。出身地は問わないが、実際には2580地区及び2750地区出身者が中心。

◇ 活動

春の例会 パストフェローの講師による公演と懇親会。

秋の交流会 海外からの平和、国際フェローとの交流会。

その他 新フェローへの地区のオリエンテーション、新フェロー選考等への参加。財団月間の卓話者としてパストフェローの紹介。

1994年から始まった春の例会の講演者には、TVキャスターの蟹瀬誠一氏、前少子化担当大臣で衆議院議員の猪口邦子氏、前述の緒方貞子氏初め多方面の会員がいます。詳しくは別紙をご覧ください。

尚、「ロータリーの友」11月号にRFTの紹介記事が掲載されています。我々演奏家が行なった音楽会の様子も出ています。